



さようなら学校の人気者

2日(金)に、みんなで大切に育てていたウーパールーパーが、2匹天国に旅立ちました。校長室前の水槽には、ウーパールーパーが全部で3匹いました。子供たちにも大人気で、休み時間になると子供たちでにぎわっていました。このウーパールーパーたちは、帯西で4年以上過ごしてきましたが、最後は静かに亡くなっていました。

このウーパールーパーには、6年生のある子供が毎日のように餌やりをしていていました。ウーパールーパーが亡くなった日も、餌やりをし忘れたことに気づき、自宅から餌やりに来てくれて、ウーパールーパーが亡くなったことを職員に教えてくれたのです。ピンク色のウーパールーパーには、体に腫瘍のような物ができていて、おそらくその影響もあり衰弱していて餌もあまり食べなくなっていました。そして、その後を追うように、マーブルのような黒っぽい色のウーパールーパーも亡くなっていました。子供たちもこのことは、きっと忘れないと思います。生き物にはたった一つの命しかありません。一つの命を大切にするように、ウーパールーパーから教えてもらった気がします。ウーパールーパーの死を悲しむ子供たちがたくさん水槽を見に来てくれています。子供たちの優しい心がありがたいです。これからも最後の1匹を「🐟 帯西ブルー」の心を感じながら、大切にしていきたいと思います。



鉛筆の秘密

子供たちが毎日使っている、鉛筆ですが、実は知らないことがたくさんあります。鉛筆を紙に走らせると、黒い線を引くことができます。これは、鉛筆の芯に含まれている「黒鉛」の粒です。鉛筆の芯は、真っ黒な「黒鉛」の粉と、それを固める「粘土」を練り合わせ乾燥させたものです。その芯の黒鉛と粘土の割合で「硬さ」「濃さ」が決まっています。粘土が多いほど硬く、黒鉛が多いほど濃くなっています。Hは「ハード(硬い)」、Bは「ブラック(黒い)」を表し、9HなどHの数字が大きいほど硬く、6BなどBの数字が大きいほど濃く軟らかい鉛筆です。HBはHとBの中間で、HとHBの間にはFというものもあります。Fは「ファーム(しっかりした)」を表します。

私がバックパッカー時代に、経済的に貧しい国に行った時のことです。一人の男の子が折れた鉛筆の芯を拾って、それを手に持ってノートに字を書いていた。「何しているの?」と尋ねると、「まだ使えるから、これで勉強するんだ。」と答えていました。物が溢れている日本ですが、「もったいない」の言葉を大切に、まずは身の回りの鉛筆を大切にしてほしいと思います。鉛筆の落とし物がまだまだ多いようです。きちんと記名(自分でした方がいいですね)をし、物を大切にする構えをつくりましょう!

